

株式会社朝日ラバー

環境・社会活動報告

2017年度

トップコミットメント

成長の源泉であるコア技術に一層の磨きをかけ
強い意思で将来に幸せをつないでいきます



環境への取り組み



環境理念・方針



事業活動における目標と実績



事業活動における資源・エネルギーの流れ



環境パフォーマンスデータ／活動状況



社会への取り組み



お客様視点のものづくりの追求



働きやすい職場づくり



社会とのコミュニケーション



トップコミットメント

日頃格別なる御引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

熊本地震によりお亡くなりになられた方々へお悔やみを申し上げますとともに、被災した皆さまにお見舞い申し上げます。

当社の経営基本方針は、多くのお客様を始めとして広く社会全体に奉仕、貢献すること。そして、全社一丸となって取り組む真摯な行動が社会全体から存在理由を見出され、「朝日ラバーに頼めば安心して任せられる」という信頼感、そして「朝日ラバーに頼めば何とかしてくれる」という期待感に繋がるものと考えております。当社が展開する事業領域は自動車事業、医療事業と新たに挑戦しているライフサイエンス事業です。どの事業も将来を支える重要な柱と位置づけております。今後も揺れ動く社会情勢の中で「歩むべき方向性」を見極める感度を高めながら、それぞれの社会活動を通じて当社の魅力を継続的に磨き続けることを努力してまいります。

第47期は「お客様の御役に立つ腕前に集中して更なる発展への道を創造する」を経営方針に掲げております。「お客様のための行動」が出来る製品・サービスとは何であるか、今の基準では良い物であっても、将来に「夢や希望や感動を与える」ことができるものなのか、現場密着で答えを導き出して行動へと移すことにあります。その答えは一足飛びに高まるものではありません。あるべき姿は前を向いて走り続ける中で答えとして見つかるものです。私達はお客様に感動を与えるプロフェッショナルであり続けたい。当社は全社員がその意思を有しながら継続してやり抜こうとする人材の集まりです。自らの成長につながる新しい価値を求め続けて着実に前進するための相互啓発を実現し、一段高いものづくりを創造しながら高品質で環境にやさしい製品が提供できるよう邁進してまいります。

今後も「日々新たな」製品や価値を「楽しんで」創造していける環境を整え、独自製品・開発製品を社会にお届けできるよう全社一丸となって真摯に努力し続けてまいりますので、より一層の御支援のほどよろしくお願いたします。

渡邊 陽一郎

環境理念・方針

環境理念

我々は環境問題が人類共通の重要課題であることを認識し、【環境にやさしいものづくり】をスローガンとして、地球環境の保全と社会への貢献を目指して活動する。

環境方針

株式会社朝日ラバーは、工業用・医療用・スポーツ用ゴム・プラスチック製品等の設計・製造販売企業であることを踏まえ、関係会社である株式会社朝日FR研究所とともに、以下の方針に基づき継続的改善を実施する。

- 1 事業活動や製品が環境に与える影響を考慮し、環境マネジメントシステムを確立し継続的な改善を図る。
- 2 関連する法令・法規・条例および社会や顧客からの要求事項を遵守する。
- 3 有機溶剤等の化学物質による環境汚染防止を図り、適正な管理に努める。
- 4 地球環境温暖化防止のため、電力・石油の節減と排出物の削減に努める。
- 5 環境に配慮した有益な新技術や新製品の開発に努める。
- 6 環境方針のもとで目的・目標・計画を定めて取組み、定期的な評価を通じて維持・改善や活動の見直しに努める。

事業活動における目標と実績

■2016年度（第47期）

方針		目標	実績
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を順守する	・水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法などの順守	工場排水や地下水の月次自主監視、廃棄物処理場の現地確認、消防、電気保安、浄化槽他の法定設備点検、各種届出等を行い、法令順守に取り組みました。
	事業活動に適用される有害物質規制を順守する	・RoHS、ELV、REACHなどの規制、指令の順守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応	改正RoHS指令の検討対象物質でゴムの添加剤に使用されるフタル酸エステル類（DEHP）と得意先要求のPVCについて代替配合の切替え活動を継続しました。
CO ₂ 削減の取り組み	廃棄物削減	・内作製品売上金額に対するゴム屑重量を前年度比1%削減する	受注増により内作製品売上高が増加しましたが、完成品の歩留り向上、投入材料削減活動に加え、製品構成の変化もあり、前年度比13.1%減少しました。
	エネルギー削減	・内作製品売上金額に対する原油換算使用エネルギーを前年度比4%削減する	受注増により内作製品売上高が増加しましたが、クリーンルームの節電やLED照明、太陽光パネル設置他の投資により前年比6.7%減少しました。

■2017年度（第48期）

方針		目標
環境関連法規制への取り組み	事業活動に適用される法規制を順守する	・水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、PRTR法、消防法、労働安全衛生法、省エネ法等の順守
	事業活動に適用される有害物質規制を順守する	・RoHS、ELV、REACH等の規制、指令の順守 ・得意先から要求される禁止物質、削減対象、監視物質への対応
CO ₂ 削減の取り組み	廃棄物削減	・内作製品売上金額に対するゴム屑重量を前年度比1%削減する。
	エネルギー削減	・内作製品売上金額に対する原油換算使用エネルギーを前年度比3%削減する。

事業活動における資源・エネルギーの流れ



省エネルギー

■ 電力使用量

2016年度は、白河工場に自家消費用の19.5kWの太陽光発電システムを設置しましたが、完成が11月になってしまい、電力の需要期である夏季に対する寄与は2017年度に持ち越しになりました。また、福島工場404本、白河工場192本の蛍光灯をLED照明に切り替え、第二福島工場では老朽化した大型エアコンの更新を行いました。

省エネ活動としては、生産設備やエアコンなどの負荷設備の電力測定を社内や電力会社様の協力で実施しエネルギー見える化し、運用改善による節電を行うための情報収集、省エネ人材育成のための講習会への派遣、省エネ工場見学会への参加、省エネ改善提案の募集などを行いました。また、白河工場では、2015年度に大きな負荷要因となった開発製品用のクリーンルームの運転方法を見直し、大きな効果を得ました。

これらの活動を行いました。受注が前年比9.2%増加した影響により、電力使用量は前年比4.5%の増加になりました。



白河工場の太陽光発電パネル



福島工場のLED照明化工事



白河工場のキュービクル

2017年2月に竣工した白河第二工場では、全フロアでLED照明を導入し、各所にセンサースイッチの採用や照明一台ごとに消灯できるようにプルスイッチを設置しています。また二重サッシや壁には保温効果を向上させる材質を用いるなどエネルギー消費をおさえる工夫を施しています。

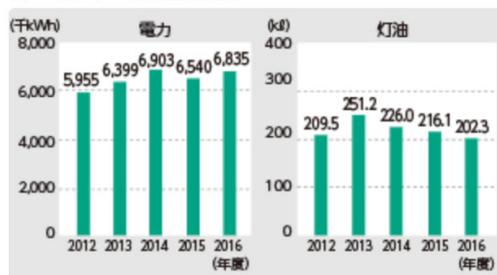
■ 灯油消費量

2016年度もこれまでの品質改善活動を継続し、医療用製品の品質不良による再生産を減少させることができました。また、一部の化学処理を行う製品の生産数量減少に伴い、灯油使用量も減少しました。これらの改善と環境変化の影響により、全体として灯油使用量は前年比6.4%減少しました。



冷却ポンプの省エネ効果を狙う冷水タンク

■ エネルギー使用量の推移



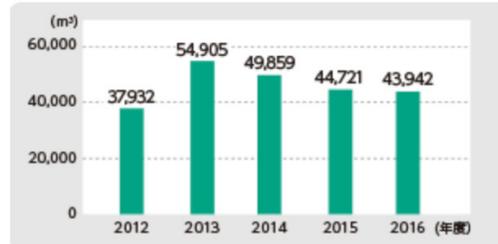
水使用量

水の使用量も灯油同様、医療用製品の品質改善活動と生産数量変化により減少しました。また、週単位での水使用量のチェックを継続し、水道配管の劣化や冬期の凍結による水道管破裂他による異常の早期発見、処置を行う活動の結果、漏水による水のロスを防止できました。この結果、水の使用量は前年比1.7%減少しました。



医療用の新製品用設備

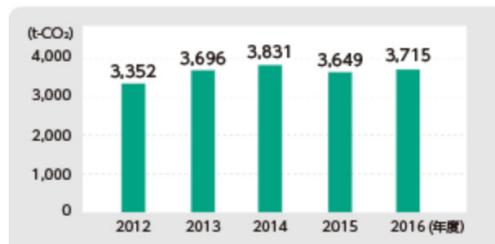
■水使用量の推移



CO₂排出量の低減

2016年度は、医療用製品の受注構成の変化で灯油使用量が前年比6.4%減少、白河工場、福島工場でのLED照明化、第二福島工場の大型エアコンの更新、白河工場のクリーンルーム運用方法見直しなどを行ったものの全社的な受注増による生産数量の増加の影響により、電力が4.5%増加し、全体としてCO₂の総排出量は前年比1.8%増加しました。ただ、内作製品売上金額に対するCO₂の排出量は、クリーンルームの節電やLED照明、太陽光パネルの設置などにより、前年比6.7%減少しました。

■CO₂排出量の推移



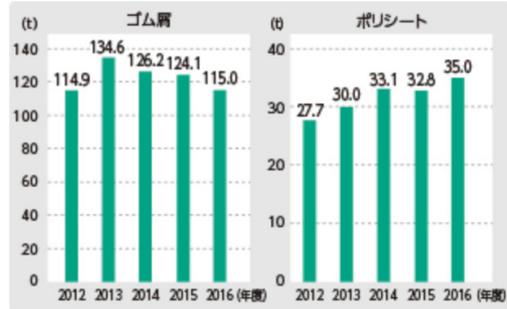
廃棄物の削減

2016年度も品質改善による投入材料削減活動を継続しました。スポーツや医療ゴム製品用の天然ゴムや合成ゴムのゴムくずが削減された一方、スイッチ用のシリコンゴム製品の受注が増加したことにより、これらのゴムくずや副資材のポリシートなどが増加しました。また、生産量の増加に伴い、原料容器であるダンボールや紙類、木製パレットも増加しました。これらの結果、廃棄物全体で前期比0.5%の増加となりました。

■ 廃棄物総排出量と前年度比の推移

年度	廃棄物(t)	前年度比(%)
2012	252.5	95.6
2013	292.7	115.9
2014	310.0	105.9
2015	290.7	93.8
2016	292.2	100.5

■ 排出量の推移



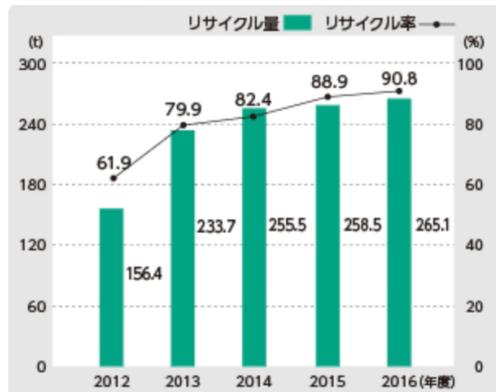
■ 廃棄物の種類

種類	排出量(t)
ゴム屑	115.0
シリコンゴム	37.9
ポリシート、プラスチック	56.1
汚泥	25.6
廃紙類	21.8
可燃ごみ	14.2
木製パレット	12.1
その他	9.5
合計	292.2

リサイクルの推進

2016年度は2015年度にリサイクルを開始した硬質を含む混合プラスチックや排水処理後の脱水汚泥のリサイクルが順調に進み、全体のリサイクル率が90.8%となりました。また、2016年度は、これまで全量を埋立処理していた廃プラストのうち、バリ取り用途のものを分別することで焼却処理が可能になり、焼却処理後の焼却灰を路盤材にリサイクルするルートを見つけることができました。このルートは焼却灰を埋立していた一部の廃ウエスにも適用でき、2017年度から本格的に運用を開始する準備ができました。

■ リサイクル量およびリサイクル率の推移



化学物質の管理

RoHS6物質が工程内で使用されないように原材料や混練加工済み材料を受入段階で検査するとともに、出荷する製品の確認を行うことで化学物質に対する品質保証を継続しています。

ゴムの添加剤に使用しているフタル酸エステル類（DEHP、BBP、DBP）が検討対象物質になったことから、これまでPVCとともに進めてきた配合薬品の代替活動が一層重要なものになりました。

工程内で使用しているPRTR法の対象となる化学物質には数種類の有機溶剤があります。

環境や安全に対するルールに従って使用するとともに化学物質の削減に向けた取り組みを進めています。

トリクロロエチレン浄化活動

当社の主力商品だったASA COLOR ランプキャップ中に含まれる不純物を取り除くため、過去にトリクロロエチレンを使用していました。このトリクロロエチレンが地下に浸透していることがわかり、1996年から土壤ガス吸引浄化装置による土壤浄化、2004年から地下水揚水浄化装置による浄化を行ってきました。

2012年度からは、微生物分解による土壤浄化の可能性についての調査を開始しました。2016年度も微生物分解による調査を継続しました。この結果、2015年度前半に投入した薬剤の効果が1年以上経過した2017年になって現れ始めていることがわかってきました。トリクロロエチレンが減少し、その分解生成物であるジクロロエチレンが増加、また、土壤菌が活動しやすい環境の指標である酸化還元電位の低下とそれに伴う土壤中の分解菌の増加傾向が確認されました。薬剤投入からその効果が表れるまでには1年以上の時間が必要になるということです。2017年度は、土壤汚染の中心付近を対象にして、あらためて同様な効果が得られるかを検証します。得られた結果から、薬剤の投入量や濃度、投入位置の間隔や深さなど、実際の土壤浄化作業を行うために必要な条件を設定することになります。



福島工場の土壤浄化試験

ゴム製品を通じたお客様視点のものづくりの追求と、 サステイナブルな社会の発展に貢献

熊本地震で被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。
また、被災地などにおきまして、救援や復興支援などの活動をされている方々に深く敬意を表します
とともに、皆様の安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

お客様の立場に立った品質を大切にしています

(1)朝日ラバーの品質方針

朝日ラバーの品質方針で大事なことは、「お客様目線の品質」を大切にすることです。得意先クレーム“ゼロ”や法令遵守に取り組むことは当然ながら、お客様のニーズを的確に把握した製品を開発し、資源と時間の無駄を徹底的に省いた生産活動に取り組んでいます。私たちは常にお客様の視点や立場に立った品質づくりを目指しています。

(2)品質保証と管理システム

重要な取り組みとして、ISO9001やISO14001の改訂を機に2017年中に事業プロセスの見直しを行い、事業プロセスと最新の国際基準を統合・一本化させ、統合マネジメントシステムを確立させていきます。品質管理の主な取り組みは工程品質保証活動です。次工程に不良を流さないようにするため、品質実績を徹底解析し、原因を究明し、個々に対策を計画していきます。品質会議で、月に一度、横断的な課題や対策の進捗状況などのレビューも実施しています。また、不良発生の予防施策として、製品の重要機能・品質を特定し、設計審査の実施に取り組んでいます。生産、購買、営業の視点もインプットし、設計段階で生かしています。

(3)品質は朝日ラバーの「土台」

土台を構成するのは人材に他なりません。問題の発見力と解決能力を磨くべく、さらなる管理技術と、ゴムの能力を最大限に発揮するための固有技術を身に付け、機械ではできない品質をお客様にご提供し続けていきます。

環境にやさしいものづくり

関連法や、省エネ法の遵守を行いながら、生産性や生産過程での供給原料の量に対する製品量の比率（歩留り）を高めることで、資源使用量を低減する努力を日々続けています。目標に対して誠実に取り組むことで、事業の成長を通じて環境考慮の経営をしていきたいと思えます。

2015年度は、法規制の遵守、有害物質規制の遵守、廃棄物の削減やエネルギーの削減を方針に環境考慮のものづくりを推進してきました。具体的には水の使用量や、廃棄物の削減ができました。2016年度の目標といたしまして、再生可能エネルギーの導入など、直接的、間接的に、3.11を経験した福島県にある企業としてこれからも環境にやさしいものづくりを目指していきます。



取締役
技術担当
高木 和久

働きやすい職場づくり

人材マネジメント

朝日ラバーが目指す人材像

1. 私たちは、一人ひとりが自立心を持って目標に挑戦します。
2. 私たちは、個性を尊重しつつ人間性の向上を育み、仕事を通じて自己実現できる環境づくりを目指します。
3. 私たちは、公平に機会を与え、公正かつ具体的に評価し処遇を決めます。

当社の人事基本戦略として、従業員との対話を大切にし、安心・健康でやりがいのある働きやすい職場づくりにつとめます。従業員が公平に評価され、働きがいやモラルの向上につながるよう、資格等級制度、評価制度、給与制度を見直し、目標を必ず達成できる企業体質の構築を目指します。育成では、従業員の保有能力を把握した上でのキャリアアッププランの策定や管理職のスキルアップ制度の導入を進めます。また、自己啓発の促進につとめ、通信教育などは修了を条件に費用はすべて会社負担として自主的な知識の習得を支援しています。

■ 両立支援制度の充実

組織の生産性と活力を高めるためにも、男女ともに柔軟な働き方と多様なライフスタイルを選択できる諸制度の充実を図っています。特に育児、母性保護、介護に関する制度の見直しに力を入れています。2011年11月には次世代認定マーク「くるみん」を取得し、従業員の子育て支援を積極的に推進している企業を目指しています。制度の整備にとどまらず、活用を促進するために制度の周知徹底、ニーズ調査の実施、施策検討チームによる検討などに取り組んでいます。



■ 主な両立支援制度一覧

出産・育児	
育児休業	最長、子が1歳6ヶ月に達するまでの期間は育児休業の取得が可能
子の看護休暇	子が小学校就学の始期に達するまでの期間、子が1人の場合は1年につき5日間、2人以上の場合は1年につき10日を限度として看護休暇の取得が可能。また、限度日数の範囲内で半日単位での取得も可能
介護	
介護休業	要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする状態ごとに通算93日間の介護休業の取得が可能
介護休暇	要介護状態にある対象家族1人につき、常時介護を必要とする場合、当該家族が1人の場合は1年につき5日、2人以上の場合は1年につき10日を限度として介護休暇の取得が可能
柔軟な労働時間	
所定時間外労働免除・制限	子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、深夜残業の禁止とともに、所定時間外労働の免除が可能
短時間勤務	子が小学校就学始期に達するまでの期間、また家族の介護を行う場合、2時間以内の労働時間短縮が可能
ノー残業デー	第2、4水曜日はノー残業デー（間接部門のみ）
半日単位有給休暇付与	1年につき5日分（半日単位で10回分）の半日単位の有給休暇が取得可能

■ 両立支援制度実績(国内事業所および関係会社)

	2014年度	2015年度	2016年度
育児休業取得者数	11	10	11
育児休業取得者復帰率	100%	100%	100%
育児短時間勤務利用者数	13	12	13
子の看護休暇取得者数・総日数	27(158日)	37(153日)	25(117.5日)
介護関連諸制度利用者数・総日数	2(3日)	2(5日)	9(22.5日)

■ 有休休暇取得者数

	2014年度	2015年度	2016年度
有給休暇 平均取得日数(日)	10.0	9.4	11.1
半日有休 取得者数	230	256	230

■ 新規採用入社3年未満退職率

	2014年度	2015年度	2016年度
新規採用入社3年未満退職率	0.0%	3.8%	0%
採用者数	5	16	7
退職者数	0	1	0

職場環境の安全

工場の現場では、休日や夜間作業になると担当者以外の人が近くにいないため、異常に気付かないことが考えられます。2014年度はこのような場面を想定し、担当者が身に付ける転倒検知装置を導入しました。担当者が倒れたまま一定時間が経過するとあらかじめ設定した部屋に異常信号を発信するというものです。これまで事故事例はありませんが、窒素ガスを使用する作業場に設置した酸素濃度低下警報やAEDと同様に、もしもの時の安全のために導入を決めました。事故の発生予防のほか、異常発生時、速やかに対応できる備えについても検討を進めています。



万が一のために導入した転倒検知装置

工場のなかには事故に発展しうるさまざまな危険が存在します。当社では、毎月工場ごとに安全衛生委員会を開催し、安全の基本となる2S（整理・整頓）を中心とした工場内パトロールを継続しています。

また当社では、従業員の声を集め、働く環境を整備する仕組みとして女性の視点による職場環境の課題を話し合う場を設けています。

自動車通勤となる工場部門では、事故防止意識を高めるため、工場に白河警察署の交通課より講師の先生をお招きし、交通安全教室を開催しました。

職場環境の安全

2016年度は労働安全衛生法の改正により、ストレスチェック、化学物質のリスクアセスメントの実施が義務化されました。ストレスチェックについては、産業医や外部機関と連携し、チェックの実施だけでなく、日ごろから従業員支援プログラム（EAP）と一体化させた健康相談や社内研修を行い、メンタルヘルスの体制づくりを行いました。

化学物質のリスクアセスメントについては対象物質を絞り込んで評価を行い、その結果について担当者教育を実施しました。

また、緊急時の避難・消火訓練の他、災害発生時のインターネットを使った安否情報連絡訓練、福島工場近郊の企業様が開催する設備への巻き込まれや挟まれ事故の危険を体験できる安全道場に工場の全社員を参加させ、安全意識の向上を図りました。

その他、健康運動やチャレンジウォーキング、スキーツアーなどの健康イベントの開催、壁新聞“ヘルスニュース”による健康意識高揚活動を行いました。



消防訓練の様子（福島工場）



メンタルヘルス研修の様子（福島工場）

メンタルヘルスケア

職場に存在するさまざまなストレスへの対処として、メンタルヘルスケアの活動に力を入れています。外部から講師を招いて管理職向けの勉強会を開催し、日常の仕事の管理面で配慮すべき点や相談できる風土づくりを通じて、生き生きと働くことのできる職場づくりを目指しています。また、規程を整備して会社として不公平感のない対応ができるよう制度づくりを進めているほか、「なんでも相談窓口」を設置して上司や同僚には話しにくいことも相談できる体制を整えています。

従業員の状況

■従業員数（2017年3月31日現在）

（単位：名）

	正社員	準社員	嘱託	パート	合計
本社	28(6)	—	2(0)	—	30(6)
大阪営業所	6(1)	—	—	—	6(1)
名古屋営業所	2(0)	—	—	—	2(0)
福島工場	73(20)	8(5)	—	—	81(25)
第二福島工場	58(20)	6(2)	—	—	64(22)
白河工場	90(24)	9(4)	—	1(1)	100(29)
白河第二工場	12(2)	—	—	—	12(2)
(株)朝日ラバー合計	269(73)	23(11)	2(0)	1(1)	295(85)
朝日FR研究所	10(2)	—	—	—	10(2)
ARI INTERNATIONAL Corp.	2(0)	—	—	1(1)	3(1)
東莞朝日精密橡膠制品有限公司	183(111)	—	—	—	183(111)
朝日科技(上海)有限公司	2(1)	—	—	—	2(1)
総合計	466(187)	23(11)	2(0)	2(2)	493(200)

※ () 内は女性人数

■年代別従業員数（2017年3月31日現在）

（単位：名）

	男性	女性
20代以下	53	25
30代	55	18
40代	63	21
50代	21	9
60代以上	4	0

■平均年齢・平均勤続年数（2017年3月31日現在）

	本社	大阪営業所	名古屋営業所	福島工場	第二福島工場	白河工場	(株)朝日ラバー合計
平均年齢(歳)	43.9(36.9)	41.0(43.6)	42.6(0)	40.0(39.2)	39.5(37.4)	37.3(35.4)	37.6(36.8)
平均勤続年数(年)	15.9(10)	10.6(3.0)	14.0(0)	15.6(16.7)	12.5(15.9)	13.6(11.7)	14.0(14.4)

※ () 内は女性

社会とのコミュニケーション

産業現場実習生の受け入れ

2016年6月、白河実業高校2年生の産業現場実習を各工場2名ずつ受け入れました。参加した学生たちからは、「働くことの大変さ、仕事をして給料をいただくことの責任を肌で感じました」と、今回の実習を通じ仕事に向き合う姿勢や責任を感じる貴重な体験になったとの感想をいただきました。



小田川小学校の皆様の工場見学

2016年11月、白河工場近隣の小学生児童14名が社会科授業の一環として白河工場を訪れました。当社製品紹介のほかに、実際にどのようにしてゴム製品が作られるのか、クイズや工作体験で紹介しました。初めてゴムに触れた児童はカラフルな色や材料の感触に歓喜し、世界にひとつの作品を見学の記念品として持ち帰りました。



JR東北本線泉崎駅の清掃

福島工場、第二福島工場の最寄駅であるJR東北本線泉崎駅で、毎週火曜日の就業時間前に4～5名の当番制で清掃活動を行っています。活動を開始して2017年で22年目になります。



朝日ラバー杯卓球大会と中学生卓球大会を開催

2016年8月、第15回朝日ラバー杯卓球大会を開催し中学生から一般まで男女合わせて約530名が参加し、白熱した試合が繰り広げられました。当社社員も出場し男子ダブルスで3位に入賞しました。同じく8月に第22回朝日ラバー杯中学生卓球大会を開催しました。今大会には福島県の県南地域から約240名の選手が参加し、日頃の練習の成果を発揮して熱戦を繰り広げました。



「Decoraしらかわ」出展

2016年11月、「Decoraしらかわ2016」食と職の祭典“～未来と希望をデコレーション”の企業・技能フェスティバルに出展しました。家族連れの来場者には小さなお子様にも楽しんでもらおうと、色鮮やかなシリコンゴムを使ってスノーマンや白河だるまなどのオーナメント小物を作成しプレゼントしたり、ツリーに飾ったASA COLOR LEDを展示するなど、身近に多くのゴム製品があることを気づいていただく機会になりました。

